

授業概要

科目名		運動障害性構音障害 I				授業の種類	講義	講師名				
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2	前期
【授業の目的・ねらい】 運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。												
【実務者経験】 言語聴覚士としてツカザキ病院に勤務、急性期、回復期、外来の失語症、高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害分野でのリハビリテーションに従事。												
【授業全体の内容の概要】 テキストや音声、動画等を用いて、運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について学び、臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身に付ける。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について理解できる。 基礎的な臨床場面の観察ポイントを理解し、その特徴やメカニズムを理解できる。 基礎的な国家試験問題を解くことができる。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	運動障害性構音障害の定義、障害構造、タイプ分類、原因疾患、運動系の障害部位の概要について理解できる。										DVD、テキスト	
2	発声発語器官の解剖学、生理学、運動機能障害が理解できる。										テキスト	
3	発声発語器官の解剖学、生理学、運動機能障害が理解できる。										テキスト	
4	聴覚的な発話特徴が理解できる。										CD、テキスト	
5	運動系の基礎理解（下位運動ニューロン系）と障害（下位運動ニューロン系の障害）が理解できる。										テキスト	
6	弛緩性ディサースリアの病態特徴と重症度が理解できる。										テキスト	
7	運動系の基礎理解（錐体路系）と障害（錐体路系の障害）が理解できる。										テキスト	
8	UUMNディサースリアの病態特徴と重症度が理解できる。										テキスト	
9	痙性ディサースリアの病態特徴と重症度が理解できる。										テキスト	
10	運動系の基礎理解（小脳系）と障害（小脳系の障害）が理解できる。										テキスト	
11	失調性ディサースリアの病態特徴と重症度が理解できる。										テキスト	
12	運動系の基礎理解（錐体外路）と障害（錐体外路系の障害）が理解できる。										テキスト	
13	運動低下性ディサースリアと運動過多性ディサースリアの病態特徴と重症度が理解できる。										テキスト	
14	混合性ディサースリアの病態特徴と重症度が理解できる。										テキスト	
15	まとめ										テキスト	
定期筆記試験												
【使用教科書・教材・参考書】 『ディサースリア臨床標準テキスト 第2版』医歯薬出版 他の科目の使用教科書等も使用する場合があります。その際は随時指示します。												
【準備学習・時間外学習】 あらかじめテキストの内容を確認してから授業に臨んでください。 また、授業後の復習も欠かさずに行ってください。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。												